

フィリップ・ヴァイトマン

カールステン・クラウゼ

UTDT - HFBK

鈴木光

金川晋吾

マリア・アルシェ

ネレ・ヴォールアッツ

奥間勝也

岡本大河

小林耕平

高嶋晋一+中川周

鐘ヶ江歆一

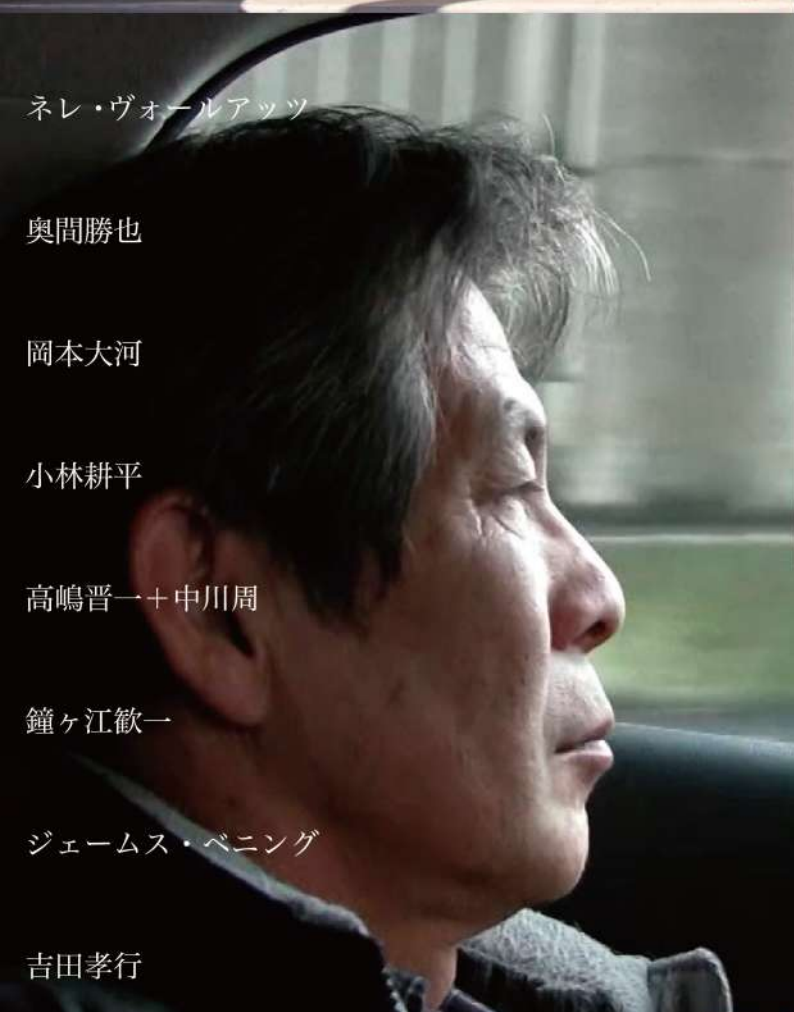
ジェームス・ベニング

吉田孝行

加藤貴文

シルヴィア・シェーデルバウアー

池添俊



2021.4.29 (Thu) - 5.1 (Sat)

Experimental Film Culture

vol.3 in Japan



SpaceCafe ポリカレ

Experimental film culture vol.3 in Japan - ポレポレオルタナティブ -

昨年3月に東中野ポレポレ座で大反響・大盛況となった映像作品上映会を2021年も開催します！

ベルリン国際映画祭、ロカルノ国際映画祭、山形国際ドキュメンタリー映画祭など各地の映画祭で上映された作品を起点に、劇映画 / ドキュメンタリー / 実験映画 / 現代美術、ジャンルの境界を超え、映像としての強度を持つ作品が選り出された。日本国内においては未だ知られざる作家たちの新作を数多く含む、世界のエクスペリメンタルフィルムによる現在進行形の映像体験。

主催：鈴木光、石川翔平（ポレポレ座） 協力：ゲーテ・インスティトゥート東京、文化庁、西澤諭志、山形国際ドキュメンタリー映画祭、恵比寿映像祭 / 東京都写真美術館

▽4/29(木・祝)

12:20～ 【A-1 エッセイフィルム】

「Szenario」フィリップ・ヴィトマン&カールステン・クラウゼ(89分) ※ベルリン映画祭上映作

14:10～ 【B ビデオレタープロジェクト】

※マル・デル・プラタ国際映画祭

UTDT - HFBK (デイヴィッド・ナサレノ・バステイト, アニカ・グーチェ, ニコラス・トゥリヤンスキ, クノ・ゼルトマン, マーロン・ウェバー, エドアルド・エッカー, イグナシオ・オユエラ, カタリーナ・ゴンザレス, ヨハンナ・ショーン, アメリー・フォン・マーシャルク)(80分)

15:50～ 【C 二人の父】

「God and Father and Me」鈴木光(36分)

「father 2009.11-12」金川晋吾(60分)

+トーク20分程度(鈴木光×金川晋吾)

18:20～ 【D アルゼンチンの二人の作家】

「Noelia」マリア・アルシェ(15分)

「The Future Perfect」ネレ・ヴォールアツツ(65分) ※ロカルノ映画祭ベストオブアーストフィチャーフィルム賞

20:00～ 【E 奥間勝也】

「ラダック それぞれの物語」奥間勝也(40分) ※山形国際ドキュメンタリー映画祭上映作

「ギフト」奥間勝也(40分) ※山形国際ドキュメンタリー映画祭上映作

「骨を握る男(パイロット版)」奥間勝也(22分)

+トーク15分程度(奥間勝也)



【A-1 エッセイフィルム】



【A-2 エッセイフィルム】



【B ビデオレタープロジェクト】



【C 二人の父】



【D アルゼンチンの二人の作家】



【E 奥間勝也】

▽4/30(金)

18:00～ 【A-1 エッセイフィルム】

「Szenario」フィリップ・ヴィトマン&カールステン・クラウゼ(89分) ※ベルリン映画祭上映作

+オンライントーク25分程度(フィリップ・ヴィトマン)

20:10～ 【A-2 エッセイフィルム】

「ニンホアの家」フィリップ・ヴィトマン(108分) ※山形国際ドキュメンタリー映画祭上映作



【F「映像と斜陽」再編 国内の美術作家による実験的な上映会の試み】



【G ジェームス・ベニング+吉田孝行】



【H 加藤貴文】



【I 池添俊+シルヴィア・シェーデルパワー】

▽5/1(土)

11:30～ 【F「映像と斜陽」再編 国内の美術作家による実験的な上映会の試み】

「イローナとペラ」岡本大河(29分)

「2-8-1」小林耕平(15分)

「Dig a Hole in a Hole (Homogenize)」高嶋晋一+中川周(21分30秒)

「Echo, Post-echo」鐘ヶ江敬一(44分)

+トーク15分程度(出品作家)

14:00～ 【G ジェームス・ベニング+吉田孝行】

「On Paradise Road」ジェームス・ベニング(75分) ※2020年新作ジャパン・プレミア

「アルテの夏」吉田孝行(16分)

+トーク15分程度(吉田孝行)

16:00～ 【H 加藤貴文】

「15s」加藤貴文(60分予定)

+トーク20分程度(加藤貴文×西澤諭志)

17:40～ 【I 池添俊+シルヴィア・シェーデルパワー】

「Memories」(15分)「Remote Intimacy」(19分) シルヴィア・シェーデルパワー

「池添俊作品特集」(30分程度)池添俊

+トーク30分程度(池添俊)

19:30～ 【A-1 エッセイフィルム】

「Szenario」フィリップ・ヴィトマン&カールステン・クラウゼ(89分) ※ベルリン映画祭上映作

【料金】一回券:1500円 三回券:3600円 フリーパス:7000円(8枚限定販売) ※ドリンクチケット購入不要

※席数25席限定 予約優先です。希望の日時とプログラム名、お名前、人数、電話番号を明記の上、experimentalfilmculture@gmail.com までメールをしてください。

チケットの精算は当日になります。フリーパスや三回券を購入希望の方はその旨もメールに明記してください。 詳細/作品紹介はこちら: <http://pole2za.com/event/2021-4-29-5-1.html>

上映スペース・ポレポレ座にて、映像作家の鈴木光がキュレーションを務める上映イベントを開催します。自身が制作活動を続ける中で生まれてきた二項対立「物語映画と非物語映画」「ドキュメンタリーとフィクション」「インスタレーションと上映」「コンテンポラリーアートと映画」「実験映画とドキュメンタリー」これらはどのように対立しているのか、そもそも対立しているのではなく共存できるのか、その間を見つめることのできる作品が集まりました。このイベントでは、ベルリン・プエノスアイレス・東京を拠点に活動する映画作家/アーティストの作品、主にベルリン映画祭や、ロカルノ映画祭で上映された実験的な映像表現を見ることができます。vol.3では、「Szenario」(フィリップ・ヴィトマン&カールステン・クラウゼの共同作品/2014年ベルリン映画祭上映作)という映画からプログラムが組み立てられていきました。この映画は、エッセイ映画というジャンルに属する作品で、1970年の西ドイツを舞台としたある男女の日々の情事を描いています。このミニ映像祭のテーマは、制作の方法として様々な実験的な要素を含み込む潜在能力を有する「エッセイ映画」と「日常」です。超インディペンデントで、他では見ることができない、映像作品をこの機会に是非ご覧下さい！エクスペリメンタルフィルムとは何か？ドキュメンタリーとフィクションの間とは何か！という問いへの美術/アート/作家主義映画の一つの回答であるかもしれません！

(鈴木光 2004年から映像作品の制作を開始。2012-2018 ベルリンに滞在。ベルリンとポツダムの大学で映画とアートを学ぶ。2018年ドイツ文化センターと共同でベルリン映画祭レポート。同年に日本へ帰国し、現在は某映像プロダクション勤務)

4/29[木・祝] 30[金] 5/1[土]

ポレポレ座

03-3227-1445

<https://pole2za.com>

